

木曾学ニュース 第18号

〒397-8588 長野県木曾郡木曾町福島 2326 番地 6

木曾町役場企画財政課内 木曾学研究所

電話 0264-22-4287 FAX 0264-24-3602

Eメール: kisogaku@town-kiso.net <http://www.town-kiso.com/kisogaku/>

日々、秋の深まりを感じる今日この頃です。

穏やかな陽気の日には、仕事を抜け出して山へ行きたくなる気分ですが、肝心の「きのこ」のほうはさっぱりで、プロでもなかなか採れないようですね。

さて、先日開催した会員会議では、今年度の経過報告と来年度の計画を話し合いました。あっという間に2時間が過ぎるほど活発なご意見をいただき、盛会となりました。ありがとうございました。

平成22年度のテーマ決まる！

次のシンポジウムのテーマは

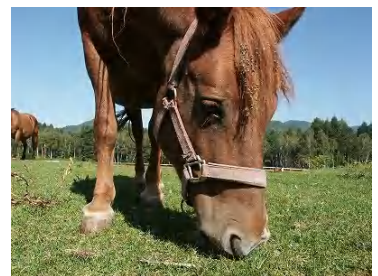
『木曾馬』 『水(その利用)』

来年度のシンポジウムのテーマが決まりました。これから詳細を詰めて、次の会議に素案を提案させていただきます。このテーマについて、「こんなことを知りたい」「打ってつけの講師がいる！」など、なんでも結構です。意見やアイデアをください。

『木曾馬』

木曾馬は、かつて木曾の生活には切り離せなかったものです。生活であり、経済であり、文化でした。またその文化財としての価値だけでなく、最近ではアニマルセラピー効果も注目されています。

シンポジウムでは、まず農耕や馬市など木曾馬の歴史を学び、その生態を学び、さらに今後の活かし方をいろんな角度から考えてみたいと思います。



…想像されるプログラム…

●基礎研究

- ①木曾馬の生態を知る
- ②木曾馬のいる生活
- ③馬市と歴史

●発展研究

- ①ホースセラピー、その効果と実践方法
- ②木曾馬を教育現場で活かさないか
- ③木曾馬を使った環境を考える
- ④木曾馬を使ったさらなる観光を考える

●見学・体験

- ①木曾馬牧場見学
- ②乗馬、馬車体験

●付録

- ①木曾馬の民話、民謡を知る
- ②馬刺し文化を探る 木曾馬は！？



『水（その利用）』

～ 運材手段からエネルギーへ ～

今回は、「水の利用」をテーマに川（水）の活用を考えてみたいと思います。木材運搬の手段から水力発電へ移り変わった川の歴史、さらに今後のクリーンエネルギーを考える機会として、実際に家庭や地域での水力発電方法を提案できれば実践的なシンポジウムになります。

…考えられるプログラム…

| | | |
|--|-------------------------------|--|
| <p>●基礎研究</p> <p>①木曾川のこと</p> <p>②運材と発電の歴史</p> | <p>●発展研究</p> <p>①水力発電の可能性</p> | <p>●見学・体験</p> <p>①木曾川の水力発電所</p> <p>②水源水の採水場</p> <p>③小型水力発電施設</p> |
|--|-------------------------------|--|

現在、木曾町役場は、開田支所が窓口になってホースセラピー事業に着手しています。「木曾馬」の研究は、木曾馬牧場はもちろんですが、開田支所とも連携して進めたいと思います。

また、「水の利用」については、このたび発足した木曾町環境会議と連携して取り組むべきですね。いずれにしても、実践につながるシンポジウムにしたいものです。

歴史に加え今後の活かし方を探る要素を加えれば、実学として、楽しくて立派な研究テーマとなりそうですね。皆さんからもアイデアをください。なお来年度両方実施するか、どちらかにするかは未定です。

…シンポジウムの意義…

今年の総会の席で、これからの木曾学研究所のあり方が話しあわれたとき、組織の自立化は時期尚早としても、木曾学研究は、まちづくりの「きっかけ」となり、「次代への働きかけ」となるよう、その時どきに応じて研究する機会を提供していくこと、シンポジウムはその場であることがあらためて確認されました。また今回からは、会員意見によりテーマ選定を行なうこととしました。

そして、今回の会議では、6つのテーマが提案され、それぞれいろいろな意見が出されました。そのなかから次年度のシンポジウムのテーマが、「木曾馬」と「水の利用」で検討してみようとなりました。では、会議のなかでどのようにテーマが決められたか、その様子をご紹介します。

… 会議の様子（参加者は10名） …

会議では、最初に井口会長から4つのテーマが提案されました。

A案 御嶽山（御岳信仰）

御嶽は木曾と切り離せないテーマ。観光や信仰の今の状況を知る必要があり、また見直す必要もある。歴史をしっかりと学び、現状を知り、経済効果を研究したい。

B案 木曾馬

木曾馬も木曾の生活には切り離せなかったもの。馬市など歴史を学び、今後の活かし方を考えたい。

C案 水（の利用）

過去、「木曾川」というテーマでシンポジウムを行なっているが、それは川の文化で総論的だった。今回は、「水の利用」をテーマに、木材運搬の手段としての川の歴史から、水力発電の歴史、さらに今後のクリーンエネルギーを考える機会にならないか。また地域資源として、城山国

有林や水源水の工場、木曾川の発電所などを見学したら勉強になる。

D案 交通の変遷

中世から現代まで時代ごとに検証し、交通環境やモータリゼーションが及ぼした地域への影響を知るとまちづくりの糧となりそうだ。面白そうなテーマだが、具体的な方法は浮かんでいない。

続いて、会員から2つのテーマが提案されました。

E案 動植物 (相川民蔵さん提案)

木曾は動植物の宝庫。どんな生態があるのか学びたい。

F案 義仲、巴御前 (中谷孝男さん提案)

義仲と巴については、木曾住民がもっと注目し、外にアピールすべき。

これらの提案に対して、以下のような意見がだされました。

- ・ 「御嶽（御岳信仰）」について、数年前に学術研究大会があった。木曾学では、学術的というより住民が現状を知り、どう活かすかを考える場としたい。
- ・ 「木曾馬」について、歴史は学び易いとしても今後の活かし方をどう設定するか難しいのでは。
- ・ 昨年、町が提携した東京農業大学にはバイオセラピーを研究する学科がある。木曾馬をセラピーとして活かす方法を取り上げる手がある。役場で着手したが、町民はまだ知らない。
- ・ それはよい活かし方だ。
- ・ 木曾馬をもっと教育の場に活かせないか。
- ・ 木曾馬は黙っていても家に帰ってくる。実に不思議だった。そうした生態や血統も勉強したい。
- ・ 今話題となっている環境のモデルとして、交通手段として活かせるかもしれない。海外に事例（スイス・ツェルマット）があるが、開田地域のある部分を特区として馬と電気自動車以外を排除すれば先進的環境モデル地区となるし、観光地としても注目されるだろう。
- ・ 馬刺文化は長野と熊本だけ。市場の馬刺しのルーツは？ 木曾馬は馬刺しにできるか？（うまいのか）。叱られそうだが、そうしたことも興味がある。食は大事。
- ・ 「水の利用」について、水力発電所は前々から見学したいと思っていた。
- ・ 時流的にも、水力発電を考えることはよいことだ。
- ・ 「動植物」について、京大の生物研究所が木曾福島川西にある。どんな活動をしているのだろうか。
- ・ 動物は、現在有害のイメージが強い。クマ、イノシシ、ハクビシン、タヌキ、サルみんなそんなイメージだ。どう共存するか、難しいテーマだ。
- ・ 植物について、外来種を知っておく必要がある。
- ・ 「義仲」について、現在、富山県、石川県と組んで大河ドラマにという運動がある。このテーマでシンポをやれば、その追い風となる。
- ・ 義仲関係は日義地域の特徴＝木曾福島以外の地域に強い特徴があるテーマをやることで、その地域に木曾学のことを周知させる効果はある。これはA案、B案にも言える。
- ・ 関連して、木曾馬は軍馬だったのか、そんなことも関心がある。

このような議論を経て、B案とC案に決まりました。

【参考】 富山県立大学瀧本裕士助教授が研究しているらせん型水力発電。高低差（落差）の少ない水路でも発電が可能。こうした紹介もお願いしてはどうか。

視察研修先も決定、“東海地方に行こう！”

来年度の視察研修は、「水と木材」をテーマに東海地方になりました。これから具体的なコース設定をします。

【遠方研修（1泊2日）】

見学地として、木曾川中流域（八百津集積場）、木曾川下流域（白鳥貯水場）、愛知用水、
名古屋市（名古屋城、山村代官の尾張屋敷跡、徳川美術館）
東海市（蘇門と平洲、平洲記念館）、渥美市（伊良湖と藤村）

宿泊地は、愛知用水の最終地である篠島や日間賀島を予定します。

※全て見学するわけではありません。

また、近隣研修も計画してみたいと思います。

- ・テーマ 木曾の大工の功績を訪ねる
- ・方面 長野県内 駒ヶ根の光前寺山門、川中島の八幡社、佐久の生島足島神社本殿
（町内）水無神社、黒川白山社、御嶽神社若宮本殿
（県外）岐阜の内津峠内津明神社

○会議の場で…

「私は、この春の視察研修で陳先生の工房へ行くというので、誘われて研究所に入ってみたが、入ってみると何かをしなければという気持ちになった。私のようにいろんな人に入ってほしい。木曾学研究所をもっと宣伝しては？」

「ここ2年間で10名ほど会員が増えています。町のいろんな広報手段で宣伝していますが、やっぱり口コミがいちばん。会員の方にもぜひ友人知人を勧誘してほしい。活動も魅力的にして、できるだけ早めに宣伝したい。その意味でも来年度事業をこの時期に決められるのは有難いことです。」

関西、関東と続いた木曾学研究所の1泊研修、来期はいちばん身近で、学びどころが多い東海地方です。今年の「関所まつり」には、東海市細井平洲記念館より立松館長が代官役として来町され、実はその際に井口代表から視察受入れのお願いもしていただきます。（さすが、井口先生！）ですので、きっと快く迎え入れていただけることでしょう。大勢のご参加をお待ちしています。（事務局・木村）